

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2025年4月20日第53号 (通巻59号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: oribunokai@gmail.com
facebook: oribunokai
blog: olivenokai.hatenablog.com



トランプの世界破壊

世界はトランプのアメリカ第一主義に振り回されている。トランプは、米国の援助機関を解体し、援助拒否し、自分たち以外に金を使うことを拒否している。キリスト教シオニストの真骨頂が表れている。キリスト教はユダヤ教の選民思想の否定し、ユダヤ人だけでなく、すべての人々に信仰のもとに救いを与えるものとして登場し、それがキリスト教が世界宗教になりえた根拠であるにもかかわらず、トランプが信仰する福音派は、白人至上主義であり、女性の権利を認めず、その偏狭さは、ユダヤ教シオニストそのものである。そこには、他者に対する愛も、おもいやりも存在しない。徹頭徹尾自己中心主義である。トランプは、それを世界に向かった実践しようとしている。

トランプの和平の仲介は、戦争での犠牲を止めるというよりも、それによって自らが利益を得るためではない。ガザでは、ガザを手に入れ、パレスチナ人を追い出し、リゾート開発するというものであり、ウクライナでは希少鉱物を手に入れようとしている。そこには、戦争で苦しむ人々の姿は眼中にない。先日亡くなったカソリックのフランシスコ教皇とは、真逆である。キリスト教徒でも違う。法王は、トランプの政策を批判していた。

ガザの停戦は米国の仲介では実現できない。

圧力は、パレスチナ側にしか掛けず、イスラエルの民族浄化を後押している。キリスト教シオニストのトランプが和平を仲介できるはずはない。イスラエルの立場に立ち、イスラエルのジェノサイドをとめるところか、それを利用して自らの利益を実現しようとしている。シオニストが、パレスチナ人を人間と考えていないように、トランプ政権も同じである。米国内でイスラエルのジェノサイドに批判の声をあげることを「反セム主義」として弾圧し、イスラエルを支援している。批判の声をあげている人々には多くのユダヤ人が含まれているにも関わらずである。抗議行動を組織した学生指導者を国外追放しようとしたたり、弾圧をしなかった大学に制裁をしたりとめちゃくちゃである。このような立場の国が仲介などできるわけがなく、イスラエルは米国の後ろ盾、支援を受けてジェノサイドに邁進している。

イスラエルとエジプトはハマスの武装解除もとめている。

イスラエルは戦争の目的を人質の解放ではなく、ハマスの壊滅に置いており、さらには、ガザからパレスチナ人を民族浄化することを目標に置いている。また、エジプト、自治政府は、ハマスの武装解除を要求している。

エジプトは、ハマスがイスラム同胞団の兄弟組織であり、現在の政権がイスラム同胞団の政権をクーデターでつぶしてできた軍事政権であり、ハマ스에敵対し、イスラエルに共同してきた、自治政府もハマ스에敵対してきた。当然のこととして、ハマスの武装解除を求めることになる。

しかし、イスラエル軍の幹部でさえ、ハマスの壊滅は不可能であることを知っている。ハマスは、パレスチナ人の中に根付いた組織であり、その抵抗が終わることはない。イスラエル自身が認めているように。イスラエルの攻撃が強まれば強まるほど、ハマスに参加するパレスチナ人は増えているのである。それを、生きるために、イスラエルに抵抗するしかないからである。多くのイスラエル人も戦争の継続はネタニヤフの政権維持のためでしかないことを知っている。

ガザので起こっていることは文字通りのジェノサイドであり、ハマスの一掃は口実に過ぎない。人質の解放も口先だけである。

イスラエルが一方向的に停戦を破棄した 3 月 18 日以降は、援助物資の完全な封鎖だけでなく、電力の供給を止め、ガザの水源である淡水化プラントを破壊し、医療施設を破壊し、人命救助を担う人々を殺害し、さらに住民を再度追い出し、再びテント生活を強要し、さらにそこを爆撃するということを行ってきた。それは、「ハマスが住民を人間の盾」にしているなどの口実では説明できない、パレスチナ人全体が生きることができないようにしている行動である。まさに文字通りガザを地獄にしているのである。ネタニヤフが旧約聖書の言葉を引用し、ガザを消しやる決意を表明したように、古代の戦争と同じように、他民族を根絶やしにすることを目標にしている。そこには、国際法や、人道法が存在する現代を無視しているのである。

西岸での民族浄化の拡大

イスラエルは、ガザだけでなく西岸でも民族浄化を進めている。西岸北部で、住民を追い出し、家屋を破壊し、道路などのインフラを破壊し。文字通り、人間が住めない状態にしている。ジェニン、トルカラムなど抵抗運動の拠点を破壊するといっているが、目標は、住民を追い出し、イスラエルへの併合を目指している。西岸では、イスラエル軍だけでなく、入植者たちがパレスチナ住民に対する暴力的な攻撃を行い、住民が住めない状態を作り出している。この暴力に抵抗したものがイスラエル軍に逮捕され、不法行為を働く入植者はなにの罪にも問われないという状態が続いている。

自治政府は、ここでも抵抗運動の戦士を逮捕したり、

イスラエル軍が忘れていった武器をイスラエル軍に返すなど、住民の防衛ではなく、イスラエル軍に協力する行動をとっている。テロを行っているのはイスラエル人である。

イスラエル国内での停戦をもとめ、人質の解放を求める声は、イスラエル軍の予備役にも拡大している。

イスラエル国内では、人質の家族たちの停戦と交渉での人質の解放を求める運動だけではなく、イスラエル軍の予備役から戦争の停止を求める声が広がっている。4 月 10 日イスラエル空軍予備役 1000 人が、捕虜の返還と戦争の終結をもとめた。これは、予備役の兵士は、普段は普通の市民であり、職業軍事ではなく、戦争の長期化はかれらの生活にも影響する。そのため招集に応じない予備役が出てきており、軍事行動にも影響をあたえることになっている。

世界中に拡大する停戦を求める声、米国とドイツは「反セム主義」として弾圧している。

何が「反セム主義」なのか、セム族は、民族として存在せず、セム語族として、ヘブライ語だけでなく、アラビア語、アラム語などの中東全体の言語の特徴を示すものであり、ユダヤ人だけをさすものでない。しかも、イスラエル支配層であるアシュケナジは、ユダヤ人でもなく、ユダヤ教に改宗したハザール人であり、スラブ語に由来するイーデッシュ語を話していた。その意味ではセム語族とはまった違うものである。しかも、ユダヤ教の原理主義は、シオニズムを否定し、パレスチナに連帯している。正統派ユダヤ教徒は、メシアが到来する前に、ユダヤ人国家を作るとは神の意志に反するものであると考えている。「反セム主義」 などという安易な決めつけは、言論の封殺のためでしかない。

パレスチナ自治政府の暗躍

自治政府とファタハは、真偽不明の情報局からリークした文書で、ハマスを武装解除し、自治政府の治安部隊と、アラブ、欧米軍でガザを支配するということが描かれていた。そして、23 日に開かれた PL0 の中央評議会で、明確にアッバースは、ハマスは権力から手を引き、人質を解放し、武器を自治政府の治安部隊に引き渡すことを要求した。リークされた文書では、イスラエルの安全を保障し、その見返りに西岸での占領軍攻撃を控えてもらおうというものであった。

この中央評議会の開催は、人民戦線、民主戦線、そして、民族イニシアチブ運動から、パレスチナの分裂を拡大するものであると評議会をボイコットしている。PL0 がパレスチナの代表機関であることを自らを捨て去っている。そこには、パレスチナの民族自決という PL0 の目

標が失われ、自治政府の権力維持だけが目的となっている。報道っでは、ラマラでのこの集会で集まるためにもイスラエル占領軍の許可を得なければならないという事態にもこの中央評議会の性格が示されている。

自治政府とファタハは、ガザの現在状況をハマスの責任として、ガザのおかれた状態に、抵抗運動としてともに戦おうとしていない。パレスチナの人々にとっては、イスラエルのための存在でしかないことで、支持を失っている。しかも、自治政府は、一貫して民意を問う総選挙を行うことを否定してきた。

イスラエルがパレスチナ全土を支配し、民族浄化をガザだけでなく、西岸でも進めている時に、パレスチナが団結して抵抗しなければ、二国解決どころか、パレスチ

ナ自身が消滅される危機にあるにも関わらず、イスラエルや欧米に認められる存在でいようとしても、イスラエル、米国は認めていないし、そのような幻想にすがればすぎるほど、パレスチナの人々からさらに見放されることになるだろう。

抵抗勢力は、国際世論と連帯し、闘い続けなければならない、

国際世論は、イスラエルのジェノサイドに立ち上がっている。イスラエルの報道管制をし、嘘を流し続けても、ジェノサイドを隠し続けることはできなくなっている。停戦と人道的支援を求める国際的な声は拡大している。

この戦争をとめなければ、世界は再び弱肉強食の文明以前の状態になる



MR Online イスラエル、ガザを廃墟と化した。

クリス・ヘッジズ著 (2025 年 4 月 17 日掲載)

初出:Defend Democracy Press 2025 年 4 月 12 日(Defend Democracy Press によるその他の記事) |

イスラエルは、第二次世界大戦終結以来最大規模の民族浄化作戦を実行しようとしている。3 月 2 日以降、イスラエルはガザへの食糧と人道支援の流入を全て遮断し、電力供給を停止したため、最後の淡水化施設は機能を停止している。イスラエル軍はガザ地区の半分(長さ 25 マイル、幅 4 ~ 5 マイル)を制圧し、ガザ地区の 3 分の 2 を避難命令の下、「立ち入り禁止区域」と定めた。これには、イスラエル軍に包囲されている国境の町ラファも含まれる。

イスラエル・カッツ国防相は金曜日、イスラエルはハマスの戦争を「強化」し、「ガザ地区住民の南部への避難や、米国大統領ドナルド・トランプによるガザ地区住民の自主移住計画の実施を含む、あらゆる軍民の圧力」を行使すると発表した。

イスラエルが 3 月 18 日に一方的に停戦を終了して以来

(イスラエルはこれを尊重していない)、イスラエルは民間人に対する容赦ない爆撃と砲撃を続け、パレスチナ保健省によると、1,400 人以上のパレスチナ人が死亡、3,600 人以上が負傷している。国連によると、毎日平均 100 人の子供が殺害されている。イスラエルは同時に、エジプトとの緊張を煽り立て、パレスチナ人をエジプト領シナイ半島へ大量追放する布石を敷こうとしている。

ベザレル・スモトリッチ財務大臣はカッツ氏の発言に同調し、ハマスが「敗北」し、残りのイスラエル人質 59 人が解放されるまで、イスラエルは全面封鎖を解除しないと述べた。

「一粒の小麦さえガザには入らない」とスモトリッチ氏は断言した。

しかし、ガザの壊滅的な破壊と継続的な大量虐殺を乗り越えてきたハマスが降伏したり消滅したりすると、イスラエル人もガザの住民も誰も期待していない。

問題はもはや、パレスチナ人がガザから追放されるかどうかではなく、いつ追放され、どこへ送られるかだ。イスラエル指導部は、パレスチナ人を国境を越えてエ

ジプトへ追い込むか、アフリカ諸国へ送るかで板挟みになっているようだ。米国とイスラエルは、東アフリカの3つの政府（スーダン、ソマリア、そしてソマリアの分離独立地域として知られるソマリランド）と接触し、民族浄化されたパレスチナ人の再定住について協議している。

大規模な民族浄化は壊滅的な結果をもたらし、ワシントンと同盟を結んでいるアラブ諸国の政権の安定を危うくし、アラブ諸国内で激しい抗議運動を引き起こすだろう。これは、イスラエルと隣国ヨルダン、エジプトとの外交関係が既に断絶寸前にあることを意味し、地域を戦争へとさらに近づけるだろう。

外交関係は、1979年のキャンプ・デービッド合意調印以来、最悪の状態に陥っている。10月7日のハマスをはじめとするパレスチナ武装勢力によるイスラエル侵攻を受けて、カイロとアンマンのイスラエル大使館は安全上の懸念から職員が撤退したため、ほとんど無人となっている。エジプトは、昨年9月にイスラエル大使に任命されたウリ・ロスマン氏の信任状を拒否した。エジプトは、昨年、前大使のハレド・アズミ氏が召還された際にも、新駐イスラエル大使を任命しなかった。

イスラエル当局は、エジプトがキャンプ・デービッド合意に違反し、北シナイ地方での軍事プレゼンスの拡大と新たな軍事施設の建設を行ったと非難しているが、エジプト側はこれらの容疑は捏造であると主張している。和平条約の付属書は、シナイ地方へのエジプト軍備の追加配備を認めている。

イスラエルの元参謀総長ヘルジ・ハレヴィ氏は、エジプトの「安全保障上の脅威」について警告した。カツ氏は、イスラエルはエジプトが1979年に調印された両国間の「平和条約に違反する」ことを許さないと述べた。

エジプト当局は、イスラエルがフィラデルフィア回廊（別名サラフッディーン軸）を占領することで条約に違反していると指摘している。フィラデルフィア回廊はガザとエジプトの9マイル（約14キロメートル）の国境に沿って走り、非武装化されているはずである。

元軍情報部長官のモハメド・ラシャド・エジプト将軍は、アラビア語紙アシャルク・アル・アウサトに対し、「ガザとエジプトの国境におけるイスラエルのあらゆる行動は、エジプトの国家安全保障に対する敵対行為に当たる」と述べた。

エジプトはこのような脅威を黙って見ているわけにはいかず、あらゆる可能性に備えなければならない。

イスラエル当局は、パレスチナ人のエジプトへの「自発的移送」を公然と呼びかけている。クネセト議員のア

ヴィグドール・リーベルマン氏は、「パレスチナ人の大半をガザからエジプト領シナイに移住させることは、現実的かつ効果的な解決策だ」と述べた。リーベルマン氏は、ガザが地球上で最も人口密度の高い地域の一つであることと、エジプト領北シナイの広大な「未開発の土地」を対比させた。また、パレスチナ人はエジプトと共通の文化と言語を共有しており、いかなる国外追放も「当然」だと指摘した。また、エジプトはイスラエルとハマスの仲介役として「現在の政治情勢から経済的利益を得ている」とされ、「トンネルやラファ検問所を通じた密輸活動から利益を得ている」としてエジプトを批判した。

イスラエルのシンクタンク、ミスガブ国家安全保障研究所（元イスラエル軍・治安当局者が所属）は2023年10月17日、政府に対し「ガザ地区全体を撤退させるまたとない機会」を活用し、エジプト政府の支援を受けてパレスチナ人をカイロに再定住させるよう求める論文を発表した。イスラエル情報省から流出した文書には、パレスチナ人をガザから北シナイに再定住させ、帰還を阻止するための障壁や緩衝地帯を建設することが提案されていた。

イスラエル軍は既に容赦なくパレスチナ人をガザ地区の封鎖地域に追い込み、閉じ込められたパレスチナ人への継続的な爆撃作戦を展開する一方で、エジプトとの国境沿いに抜け穴だらけの避難口を設けており、パレスチナ人追放は迅速に行われる可能性が高い。これはエジプト軍との致命的な対立を招き、ガザ地区におけるパレスチナ人に対するいかなる民族浄化も「越えてはならない一線」と呼んでいるアブドルファッターハ・エルシーシ率いるエジプト政権を即座に危機に陥れることになるだろう。そこから地域紛争へと発展するのは容易ではない。

イスラエルは「大イスラエル」構想の一環として、シリアとレバノン南部の領土を掌握しており、エジプト、ヨルダン、サウジアラビアの領有権獲得も視野に入れている。ガザ沖の海上ガス田を狙うイスラエルは、スエズ運河を迂回し、紅海に面するイスラエルの破綻したエイラート港と地中海を結ぶ新運河建設計画も打ち出している。これらの計画は、ガザからパレスチナ人を追放し、ユダヤ人入植者を移住させることを必要とする。

アラブの民衆の怒り——私がここ数ヶ月、エジプト、ヨルダン、ヨルダン川西岸、カタールを訪問した際に目撃した怒り——は、大量追放が実現すれば、当然の激怒として爆発するだろう。これらの政権は、権力維持のためだけに行動を起こさざるを得なくなるだろう。組織的集団によるものであれ、単独犯によるものであれ、イスラエルと西側諸国、特にアメリカ合衆国を標的としたテロ

攻撃が激化するだろう。

ジェノサイドはイスラエルにとって、この残虐行為の代償をある程度理解しているはずだ。しかし、彼らはそれを受け入れているように見える。彼らは愚かにも、国家共同体から追放した人々、彼らが「人間という動物」と呼ぶ人々を抹殺しようとしているのだ。

イスラエルとワシントンは、パレスチナ人が何世紀にもわたって暮らしてきた土地から追放されたら、何が起きているのだろうか？絶望に陥り、希望も尊厳も生計の手段も奪われ、地球上で最も技術的に進歩した軍隊の一つによって虐殺されている人々が、どう反応しているのだろうか？パレスチナ人のためにダンテの地獄を創り出すことで、テロリズムを鈍らせ、自爆攻撃を抑制し、平和を育むと考えているのだろうか？中東に広がる怒りの波紋と、それが私たちへの憎悪を何十年にもわたって植え付けるであろうことを、彼らは理解できないのだろうか？

ガザでのジェノサイドは、今世紀最大の犯罪である。それはイスラエルを苦しめることになるだろう。それは私たちが苦しめることになるだろう。私たちがパレスチナ

人に犯した悪行を、私たちの目の前に突きつけることになるだろう。

自業自得だ。私たちは憎悪と暴力の地雷原を蒔いてしまったのだ。

マンスリー・レビューは、MR Online で再掲載された記事で伝えられるすべての見解に必ずしも賛同しているわけではない。私たちの目標は、読者の皆様が興味深く、あるいは有益と思われる、多様な左派の視点を共有することです。—編集者

クリス・ヘッジズについて

クリス・ヘッジズはピューリッツァー賞を受賞したジャーナリストで、ニューヨーク・タイムズ紙の海外特派員として 15 年間、中東支局長とバルカン半島支局長を務めました。以前は、ダラス・モーニング・ニュース、クリスチャン・サイエンス・モニター、NPR で海外勤務を経験しました。エミー賞ノミネート作品である RT アメリカの番組「オン・コンタクト」の司会者でもあります。

ジェノサイド



2025 年 4 月 16 日 ニュース

ガザ地区のフェンス付近に立つイスラエル兵。(写真：IDF 報道官部隊 / CC BY-SA 3.0, Wikimedia Commons 経由) 軍高官らは、この危機はベンヤミン・ネタニヤフ首相と政治安全保障閣僚に「できるだけ早く」提起すべきだと考えている。

イスラエルによるガザ地区への大量虐殺的攻撃の停止を求める数百人の予備兵による請願を受け、イスラエル軍は戦闘地帯に展開する予備兵を配備期間終了後に正規兵に置き換え、徴兵通知の数を減らすことを決定したと、ヘブライ・ハアレツ紙が火曜日に報じた。

報道によると、陸軍司令官たちは、イスラエルの飛び地における作戦に対する予備役兵の不信感「作戦計画に悪影響を及ぼす可能性があり、ガザ、レバノン、シリア、ヨルダン川西岸地区での戦闘計画の遂行が困難であることは既に陸軍にとって明らかである」と考えているという。

一方、予備役兵への依存を減らすため、ガザには正規部隊がさらに派遣されている。

空軍予備役兵の嘆願書

先週、イスラエル空軍の現役および元予備役兵 970 人が、ガザにおけるイスラエルの軍事作戦の停止とすべての捕虜の解放を求める嘆願書に署名した。陸軍参謀総長のエヤル・ザミールは、空軍司令官トメル・バーの承認を得て、現在も軍に勤務している署名者を直ちに停職処分とした。

しかし、ハアレツ紙によると、この動きは逆効果をもたらした。抗議活動への支持が高まり、同様の書簡に署名する予備役兵も増えたのだ。

報告書によると、ザミール氏は「被害を最小限に抑える必要があることを理解している」と述べ、解決策を探るため、署名者らを再度招集する会合が開かれる予定だ。

ザミール氏はまた、他の部隊からも予備役兵を招集し、それぞれの主張を述べる予定だ。

報告書によると、軍関係者は「予備役兵の解雇は、たと

え直接的なものでなかったとしても、政治階層からの圧力によって行われたことを認めており、予備役兵の危機は国民に伝えられているよりもはるかに深刻になっていると考えている」という。

ハアレツ紙（英語）は水曜日、「空軍予備役兵を支持する書簡に署名した数千人のうち、約 20% は戦争勃発以来予備役として任務に就いており、その他多くの人々は重要な任務に就いている」と報じた。そのため、署名者の数は軍にとって懸念材料となっている。

軍の対応

軍高官らは、この危機をベンヤミン・ネタニヤフ首相と政治安全保障閣僚に「できるだけ早く」提起すべきだと考えている。

イスラエル軍は「国家的な行動を継続し、紛争が軍内に入り込むことを許さない。予備役兵士は、現役予備役ではない場合でも、市民として、あらゆる問題について民主的な方法で意見を表明する権利を有する」とザミール氏は述べたと報じられている。

さらに、軍を「引きずり出し」、「部隊を代表して集団として発言する」試みは容認できず、決して容認しないと述べた。

ハアレツ紙は、軍報道官室の声明を引用し、「最近の抗議活動を受けて作戦地域における予備役兵力が希薄化しているという主張は誤りで、抗議活動を受けて予備役兵力構成に変更は加えられていない。2025 年の予備役兵力構成は計画通り概ね安定している」と報じた。

海軍兵士の嘆願書

火曜日早朝、イスラエル海軍の兵士と退役軍人数十人が、「戦争終結というコストを払っても」捕虜の解放を求める声明を発表した。

ハアレツ紙によると、署名者 254 人のうち 69 人は「現役予備役」だった。

同様の嘆願書は、ここ数日、他の部隊の退役軍人によっても提出されている。

アナドル通信が収集したデータによると、これまでに軍人、元警察官、民間人専門家によって 28 件の嘆願書が署名されており、署名者総数は約 2 万 9000 人に達した。

イスラエル警察の嘆願書

イスラエルによるガザへの破壊的な戦争終結を求める声が新たに高まり、200 人以上の元イスラエル警察関係者が水曜日にハマスとの捕虜交換を求める最初の嘆願書に署名したと、アナドル通信がハアレツ紙を引用して報じた。

同紙によると、署名者には元警察署長 8 人が含まれており、その中には 2023 年に極右の国家安全保障大臣イ

タマール・ベン＝グヴィル氏によって解任されたテルアビブ地区元警察署長アミ・エシェド氏も含まれている。

彼らは、交渉による合意に基づく捕虜の即時帰還と、ガザへの軍事攻撃の停止を求めた。

署名者たちは、現在の攻撃は国家安全保障ではなく、個人的な動機や政治的動機によって引き起こされていると述べたと、報告書は付け加えた。

イスラエルの精鋭部隊ゴラニ旅団の兵士約 150 人も同様の嘆願書に署名し、支援を強く訴えている。捕虜の解放を確実にするために、戦争を終わらせるべきだ。

文学者の嘆願書

何百人ものイスラエルの作家、詩人、文学者も日曜日に同様の要求を記した嘆願書に署名した。

ハアレツ紙によると、署名者たちはネタニヤフ首相がガザへの軍事攻撃を継続していることを非難し、「文明社会、民主主義社会としてのイスラエルの最も基本的な価値観、そして独立宣言の価値観」を損なっていると非難している。

彼らは、「首相は自身の自由のために、現在裁判で審理されている容疑による投獄を恐れ、人質の自由を奪い、IDF（イスラエル国防軍）兵士を危険にさらし、ガザの民間人に不釣り合いな危害を加え続けている。しかも、イスラエルで起こっている司法クーデターをエスカレートさせているのだ」と述べたと報じられている。

圧力にさらされるネタニヤフ首相

ネタニヤフ首相は、請願者たちが自身の政権転覆を企てていると非難した。

「これらの手紙は、我々の英雄的な兵士たちの名において書かれたものではない。少数の過激派によって書かれたものだ」と、アナドル通信が引用した声明の中で首相は述べた。

これらの請願は、1 月 19 日に発効した停戦および捕虜交換合意の第一段階が崩壊したことを受けて行われた。ハマスは合意条件を遵守したが、極右連合からの圧力に直面したネタニヤフ首相は第二段階への進展を拒否し、3 月 18 日に軍事作戦を再開した。

驚異的な死者数

イスラエル軍による最近の軍事行動により、数千人のパレスチナ人が死傷しており、そのほとんどは民間人である。

多くの国や人権団体が停戦違反を非難する一方で、米国はイスラエルへの支援を継続し、軍事作戦はワシントンからの事前の通知と承認を得て実施されたと主張している。

2023 年 10 月以降、イスラエルは 5 万人以上のパレス

チナ人を殺害し、その多くは女性と子供であり、ガザ地区は荒廃した。さらに、11 万 6000 人以上が負傷し、1 万 4000 人が行方不明となっている。

024 年 11 月、国際刑事裁判所は、イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相とヨアブ・ガラント前国防相に対

状を発行した。

イスラエルはまた、包囲されたガザ地区における行為をめぐり、国際司法裁判所でジェノサイド罪の訴追に直面している。

(PG、アナドル、ハアレツ)

私がイスラエルの「民主化」運動を支持しない理由

2023 年 4 月 29 日、イスラエルのテルアビブで、ベンヤミン・ネタニヤフ首相と彼の民族主義連立政権による司法制度改革に反対するデモに参加する人々。[コリーナ・カーン / ロイター]

2025 年 4 月 10 日公開

イスラエルとパレスチナについて話すとき、私はベンヤミン・ネタニヤフ首相の政権に対する国内の抵抗についてどう思うかとよく聞かれる。

質問者たちは、過去 2 年間、政府と司法改革の試みに抗議するために街頭に繰り出してきた数十万人のイスラエル人を例に挙げ、なぜ私がネタニヤフ政権の終焉に向けたこうした取り組みに無関心であり続けるのかと問いかけています。

私の答えはシンプルです。イスラエルが直面している真の問題は現政権ではありません。政権は崩壊するかもしれませんが、政権の本質を根本的に変革しない限り、大した変化は起こらないでしょう。特にパレスチナ人の基本的人権に関しては、大きな変化は起こらないでしょう。最近のイスラエル最高裁判所の判決は、私の主張を裏付けています。

2024 年 3 月 18 日、イスラエルの 5 つの人権団体は、イスラエル最高裁判所に緊急請願を提出し、イスラエル政府と軍に対し、国際人道法上の義務を履行し、ガザ地区の壊滅的な状況下で民間人の人道的ニーズに対応するよう指示するよう求めました。

この請願は、ガザ地区に援助物資が流入している時期に提出されましたが、国境を越えて流入する物資の量は、住民の 75% が既に避難を余儀なくされており、最低限のニーズを満たすには程遠いものでした。人権団体は、政府に対し、ガザ地区、特に栄養失調や脱水症状で子供が死亡している事例が既に記録されている北部地区への援助物資、物資、人員の流入に関するすべての制限を解除するよう求めました。

最高裁判所は 1 年以上判決を下さず、事実上、政府が援助を野放しに制限し続けることを容認しました。人権団体が請願を提出してから 3 週間後、裁判所は政府に対し、請願に対する暫定的な回答を更新するための追加時間を与えるためだけに開廷した。これは、今後 12 ヶ月間の請願の進め方を決定づけることになった。

請願者が民間人の状況悪化に関するデータを提供し、司法介入の緊急の必要性を強調するたびに、裁判所は政府に更なる情報提供を求めた。例えば 4 月 17 日の更新では、政府はガザ地区に入る援助トラックの数を大幅に増加させたと主張し、2023 年 10 月 7 日から 2024 年 4 月 12 日の間に 2 万 2,763 台のトラックが検問所を通過することを許可したと主張した。これは 1 日あたり 121 台のトラックに相当し、ガザ地区で活動するあらゆる人道支援機関によれば、住民のニーズを満たすには程遠い数である。

2024 年 10 月、申立てから少なくとも半年後、人権団体は、政府が 2 週間にわたり人道支援物資の搬入を意図的に阻止したことを受け、裁判所に仮差し止め命令の発令を求めた。これに対し、政府はガザ北部の状況を綿密に監視しており、「食糧不足はない」と主張した。しかし、2 か月後、政府はガザ北部に閉じ込められたパレスチナ住民の数を過小評価していたことを認め、ガザ地区への物資の搬入が不十分であったことを認めた。

2025 年 3 月 18 日、イスラエルが停戦合意に違反し、ガザ地区への爆撃を再開し、エネルギー・インフラ大臣がガザ地区への電力供給を停止したことを受け、申立人たちは、人道支援物資の搬入を阻止した政府の決定に対する仮差し止め命令を求める緊急申立てを再度提出した。しかし、裁判所は再び判決を下すことがで

きなかった。

人権団体が申し立ててから1年以上が経った3月27日、ついに裁判所は判決を下した。イツハク・アミット最高裁長官、ノアム・ソールバーク判事、デイヴィッド・ミンツ判事は全員一致で、申し立てには根拠がないと判断した。デイヴィッド・ミンツ判事はユダヤ教の聖典を引用しながら反論し、イスラエルの攻撃を神聖な義務の戦争と特徴づけ、「[イスラエル軍]と被告らは、ガザ地区への人道支援の提供を可能にするために、たとえそれが、イスラエル軍の攻撃によって命が失われるリスクを負いながらも、全力を尽くした」と結論付けた。移送された資金はハマスの手に渡り、イスラエルに対する戦闘に利用されるだろう。」

このように、人道支援機関が深刻な栄養失調と飢餓の深刻さを繰り返し指摘しているこの時期に、イスラエルの最高裁判所は、司法手続きの進め方と判決の両面において、救援物資の供給を故意に妨害するなど、民間人から生存に不可欠な物資を奪うことを控えるというイスラエルの法的義務を無視しました。事実上、最高裁判所は飢餓を戦争の武器として利用することを正当化したのです。

何十万人ものイスラエル人が救おうとしているのは、まさにこの裁判所です。3月27日の判決、そしてパレスチナ人に関するほぼすべての判決は、イスラエルの最高裁判所が植民地裁判所、つまりパレスチナ人の権利を侵害する裁判所であることを明らかにしています。入植者人口の権利を侵害する一方で、先住パレスチナ人に対する土地の剥奪、強制移住、そして恐ろしい暴力を正当化している。最高裁判所は、特に政治腐敗に関する問題においては現政権の価値観を反映していないかもしれないが、植民地政権の価値観を常に反映してきたことは疑いようもない。

したがって、毎週末テルアビブの路上に繰り出すリベラル・シオニストたちは、民主主義を危険にさらす司法制度改革に反対しているのではなく、ユダヤ人の民主主義を危険にさらす改革に反対しているのだ。これらの抗議者のうち、人道支援に関する最高裁判所の恐ろしい判決、あるいはさらに言えば、最高裁判所がイスラエルのアパルトヘイトと植民地主義の柱を一貫して支持してきたことに対して、真の懸念を抱いている者はほとんどいない。言い換えれば、イスラエルのユダヤ人市民の権利が保障される限り、政権はパレスチナ人を妨害されことなく排除し続けることができるのだ。

この記事で表明された見解は著者自身のものであり、必ずしもアルジャジーラの編集方針を反映するものでは

ありません。

ネーヴ・ゴードンは、ロンドン大学クイーン・メアリー校の国際法教授です。『イスラエルの占領』の著者であり、『支配する人権』の共著者でもあります。

アハリー病院に支援を アハリー・アラブ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田 2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラブ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525



アイヤム・アハリー
Ayyam Ahli / Days of 'Ahli'
2025年4月23日 No. 47

アハリー・アラブ病院
を支援しよう！
即時停戦！ガザ解放！
パレスチナと共に！

アハリー・アラブ病院を支援する会 共同代表 村山雄志・藤田 進
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 キリスト教事業所連帯合同労働組合気付 MAIL: ayyam_ahli@yahoo.co.jp

アハリー・アラブ病院を支援する会ニュース・レター

アハリー・アラブ病院が爆撃された！

2025年4月13日(現地時間)にアハリー・アラブ病院がイスラエル軍のミサイル攻撃に遭いました。攻撃の30分前に、イスラエルから攻撃予告があり、入院患者、患者、スタッフは避難することが出来ましたが、患者であった一人の少年が爆撃によるショックで亡くなりました。激しい爆撃により、アハリー・アラブ病院は大きなダメージを受けました。北部で唯一、完全に機能していたアハリー・アラブ病院は、ガザで生きる人びとの命綱です。それを容赦なく破壊し、パレスチナ人を正に絶望に陥れようとするイスラエルを我々は許すことはできません。それでも、アハリー・アラブ病院は様々な医療品や設備を使って立ち上がりつづけています。どうぞ引き続きご支援をお願いいたします。

スハイラ院長からのメール 2025年4月16日受信

変わらぬお気遣いとお祈りをありがとうございます。

このつらい時、皆さまからのお支えは、言葉が伝える以上の価値があります。

既にご存知かもしれませんが、アハリー・アラブ病院は先日の空爆による大規模な被害が続いています。新設の産科検査棟、救急部門、薬局、外来診療科など、当院の重要な施設が破壊ないし深刻な影響を受けました。現在、当院の救急および外来対応は機能不全に陥り、全面稼働できません。

それでも当院の献身的なスタッフは破壊のさなかであって、限られてはいませんが、まだ利用可能なあらゆる手段を使って、なすうるすべてのことを集中治療室、入院病棟、手術室で行っています。事態はきわめて困難ですが、われわれは臨時の拠点を数ヶ所立ち上げ、緊急に医療を要する人々を支援しています。

医療品は決定的に不足しており、今



攻撃直後の病院の様子。右側は入院患者を収めた診療棟。



国際司法裁判所 (ICJ) の中国代表、馬新民氏。(写真：ICJ ウェブサイトより)

2025 年 4 月 15 日 記事、論評、社説

ラムジー・バルード、ロマーナ・ルベオ

私たちはフォーク教授に、パレスチナ人の自衛権、特に武装闘争とその国際法との整合性（あるいは不整合性）について具体的に質問しました。

2024 年 2 月 22 日、国際司法裁判所 (ICJ) の中国代表、馬新民氏は予想外の発言をしました。

彼の証言は、他の多くの証言と同様に、イスラエルによるパレスチナ占領の法的帰結に関する重要かつ長らく待たれていた法的見解を国際司法裁判所 (ICJ) が策定する上で役立つことを意図していました。

馬新民氏は、米国特使の証言とは異なり、国際法および人道法に完全に沿った中国の立場を明確に表明した。

しかし、彼はタブー視されていた問題、すなわち中東および南半球におけるパレスチナの最も緊密な同盟国でさえ触れようとしなかった問題、すなわち武力闘争の権利について深く掘り下げた。

「パレスチナ人が外国の抑圧に抵抗し、独立国家の樹立を成し遂げるために武力を行使することは、奪うことのできない権利である」と中国大使は述べ、「植民地主義、占領、侵略、外国勢力に対する武力闘争を含む、解放と自決権のために人民が闘争することは、テロ行為とみなされるべきではない」と主張した。

予想通り、馬新民氏の発言はそれ以上の反響を呼ばなかった。政府も、左派を含む多くの知識人も、彼の発言を機にこの問題をさらに深く掘り下げようとはしなかった。パレスチナ人を被害者か悪役かで分類する方がはるかに都合が良い。抵抗するパレスチナ人、つまり自らの運命を主体的にコントロールする者は常に危険な領域に身を置く。

しかしながら、馬新民氏の発言は完全に国際法の範囲内

で行われた。そのため、国際法の第一人者であり、元国連パレスチナ特別報告者であるリチャード・フォーク教授との最近のインタビューで、この問題について議論する機会を逃すわけにはいかなかった。

フォーク教授は、この分野でいかに優れた実績を残してきたとしても、単なる法律の専門家ではない。深い知識人であり、鋭い歴史の研究者でもある。彼は非常に慎重に語るが、ためらったり、言葉を濁したりすることは決してない。彼の考えは「過激」に見えるかもしれないが、それは主流メディアや学界の限られた知的枠組みの中でその言葉が理解される場合に限る。

フォーク教授は、グラムシの原則に則って言う「常識」ではなく、「良識」を語る。それは完全に合理的な言説だが、しばしば主流の考え方とは矛盾する。

私たちはフォーク教授に、パレスチナ人の自衛権、特に武装闘争とその国際法との整合性（あるいは不整合性）について具体的に質問しました。

「はい、それは国際法の正しい理解だと思います。しかし、西側諸国は概して、この話を聞きたがりません」と、フォーク教授は 2 月 24 日の馬新民氏の発言に対し述べました。

フォーク教授はさらにこう続けました。「抵抗の権利は 1980 年代と 1990 年代の脱植民地化の過程で確認され、これには武装抵抗の権利も含まれていました。しかし、この抵抗は国際戦争法の遵守を条件とします。」

世界人権宣言の前文にも、「人間が最後の手段として、専制政治や抑圧に対する反乱に訴えざるを得ないようにするためには、人権は法の支配によって保護されなければならない」と記されています。

イスラエルは国際戦争法を遵守していません。例えば、ガザにおける状況全体は、イスラエルが戦争法のみならず、国際法および人道法の枠組み全体を完全に無視していることを示す、最も露骨な違反の一つです。

一方、恒久的な自衛状態にあるパレスチナ人は、イスラエルとは異なる価値観に突き動かされています。一つは、自らの抵抗手段における道徳的正当性を維持する必要性を十分に認識しているということです。

したがって、「戦争法の遵守」とは、民間人を保護すること、「あらゆる状況において」傷病者を尊重し保護すること、「戦争の手段と方法」を制限することで「不必要な苦しみを防ぐこと」、「適切な」攻撃を行うこと、といった原則を含むコミットメントを意味します。

これは、2023年10月7日にイスラエル南部のガザ包囲地域として知られる地域で行われたアル・アクサ洪水作戦に繋がります。

「10月7日の攻撃に伴う残虐行為の真の証拠がある限り、それは違反を構成するだろうが、攻撃自体は文脈から見て完全に正当化可能であり、ずっと前から行われるべきだったように思える」とフォーク氏は述べた。

上記の発言は衝撃的だ。控えめに言っても、これはパレスチナ抵抗勢力の攻撃中に何が起ったのかという、いくつかの主張（その多くは既に虚偽であることが証明されている）と、作戦そのものの最も明確な違いの一つである。

だからこそ、イスラエル、米国、そして西側諸国の政府やメディアといった同盟国は、戦争へと繋がった出来事を歪曲しようと躍起になり、集団レイプ、乳児の斬首、音楽フェスティバルにおける罪のない参加者の無意味な虐殺といった全くの嘘を流したのだ。

イスラエルはこうした誤解を招くような物語を作り出すことで、10月7日へと繋がった出来事から議論を逸らし、罪のない民間人に対して言語に絶するほどの恐怖行為を行ったとしてパレスチナ人を守勢に追い込むことに成功した。

フォーク氏によると、「西側諸国とイスラエルが用いた戦術の一つは、10月7日を文脈から切り離し、まるで突如として現れたかのように見せかけることだった」という。

「国連事務総長は、パレスチナの人々に対する長年にわたる虐待の歴史が、この出来事に至るまで続いてきたという明白な事実を指摘しただけで、反ユダヤ主義者として非難されたのです」と彼は付け加え、アントニオ・グテーレス事務総長が10月7日は「真空中で起こったのではない」と明言したことに言及した。

現代における国際法の最も影響力のある学者であり擁護者の一人であり、象徴的な人物であるフォーク氏の言葉は、パレスチナの抵抗について真の議論を促すに違いない。

い。

パレスチナの抵抗の歴史は、厳密に言えば武装抵抗の歴史ではない。後者は、文化、精神性、市民的不服従、ゼネスト、集団抗議、ハンガーストライキなど、社会表現のあらゆる側面に及ぶ、民衆の抵抗の長い歴史の単なる顕現に過ぎない。

しかし、パレスチナ人が自らの武装抵抗を（戦争法を遵守する限りにおいて）法的枠組みの中に位置づけることに成功すれば、パレスチナ人の闘争、あるいはパレスチナ社会の大部分を非合法化する試みは、異議を唱えられ、最終的には阻止されるだろう。

イスラエルは国際機関による意味のある行動から免責され続けている一方で、自由、正義、そして解放を求める正当な闘争において支援を受けるところか、非難され続けているのはパレスチナ人である。

馬新民氏やリチャード・フォーク氏をはじめとする多くの勇気ある声だけが、最終的にこの歪んだ歴史言説を正すだろう。

ラムジー・バルード博士はジャーナリスト、作家であり、『パレスチナ・クロニクル』誌編集者でもある。6冊の著書がある。イラン・パペ氏と共編した最新作は、『解放への私たちのビジョン：パレスチナの指導者と知識人が声を上げる』である。他の著書に『父は自由の闘士だった』『最後の地球』などがある。バルード氏はイスラムとグローバル問題センター（CIGA）の非常勤上級研究員である。ウェブサイトは www.ramzybaroud.net。

ロマーナ・ルベオ氏はイタリア人作家であり、『パレスチナ・クロニクル』誌の編集長を務めている。彼女の記事は多くのオンライン新聞や学術誌に掲載されている。外国語・文学修士号を取得しており、オーディオビジュアル翻訳とジャーナリズム翻訳を専門としている。



4月17日パレスチナ獄中者の日のPFLPのポスター



UAWC 国際ボランティアキャンペーンのお知らせ

2025 年 4 月 8 日 tamam ニュース

農業労働委員会連合 (UAWC) は、イスラエル人入植者の暴力と占領地における土地の盗難の脅威に日々さらされているパレスチナの農民、遊牧民、そして農村コミュニティを支援するため、緊急の国際ボランティアキャンペーンを開始します。

ヨルダン川西岸地区 C 地区全域で、パレスチナのコミュニティは、土地からの強制的な立ち退きを目的とした攻撃の激化に直面しています。農民と遊牧民は依然としてこれらの攻撃に抵抗していますが、リスクは増大しており、国際的な連帯がこれまで以上に重要になっています。

このキャンペーンは、脆弱なコミュニティで保護的な存在として活動し、違反行為を記録し、目撃し、土地にとどまるための闘いを続けるパレスチナの農民を支援する、献身的な国際ボランティアを募集しています。このキャンペーンは 2 つのフェーズに分かれています。夏季 (7 月～8 月) の「連帯の盾」と、秋季 (10 月～11 月) の「オリブ収穫」です。

パレスチナ日誌

3 月 1 日停戦の 41 日:

- ・ハマス側は協定の条件へのコミットメントを確認し、その義務を履行するよう占領軍に圧力をかけるよう求めている。
- ・Maariv: イスラエル国民の 39% が交換協定の完了を否定
- ・チャンネル 13 イスラエル ネタニヤフ首相、戦争再開を検討
- ・イスラエルのエルサレム入植地併合法案
- ・ワシントン、イスラエルへの 30 億ドルの武器売却を承認
- ・イスラエルによる違反行為と第一段階延長の要求が重なる
- ・アル=フーシ: イスラエルがガザへの戦争を再開すれば、イスラエルは火の海
- ・イスラエルは国連と援助団体にガザ管理計画を提示した。
- ・ハマス 現在交渉は行われておらず、占領軍が第 2 段階を妨害している。
- ・ガザでは新たに 21 人の殉教者が発見され、戦死者数は 48,388 人となった。
- ・ハマス 我々は、イスラエルの第一段階延長の方式を拒否する。
- ・イスラエル人 4 人の家族 米大統領に対し、ネタニヤフ首相が停戦合意を妨害することを阻止するよう要求する。

3 月 2 日停戦から 42 日:

- ・イスラエル占領軍は戦闘再開の準備を進めている... "選択肢は 2 つ"
- ・ヨルダン国王は、ガザの停戦を強固なものにし、移住者を出さずに復興するよう呼びかける。
- ・イスラエルはガザ一時停戦のためのヴィトコフ案を採用。
- ・イスラエル、ガザ地区への人道援助入国を停止
- ・スモトリッチは援助削減を歓迎し、ガザに地獄の門を開くよう呼びかける
- ・イスラエル、エルサレム地域の入植地を併合する法案を提出

私たちは、パレスチナの大義に深く関わり、パレスチナのコミュニティにおいて責任と敬意を持って行動する意志を持ち、この活動に伴うリスクと課題を十分に理解している方を求めています。

イスラエル人入植者による植民地化プロジェクトは、暴力、土地の窃盗、生計の破壊を通じて、農村部からパレスチナ人の存在を消し去ろうとしています。パレスチナ人農民を支援することは、パレスチナ人の土地権、食料主権、そして居住権を守る上で不可欠です。

参加方法

キャンペーンの詳細とボランティアへの応募については、uawc-pal.org/volunteer/ にアクセスし、国際ボランティア関心フォームにご記入ください。

今こそ、パレスチナ人農民と共に立ち上がり、彼らの土地に居住する権利を守るための重要な時です。私たちは、国際的な同盟国に対し、この緊急の取り組みに加わるよう呼びかけます。

- ・停戦が発表されて以来、ガザ地区では 116 人の殉教者が出ている。
- ・占領軍はアル・アクサ・モスクを 20 回襲撃し、イブラヒミ・モスクでの祈りの呼びかけを 44 回阻止した。
- ・ネタニヤフ首相 我々は、ガザへの援助入国を停止することを決定した。
- ・デモ隊がネタニヤフ首相の本部近くの道路を封鎖し、囚人交換取引を要求。

3 月 3 日

- ・スシヤ村で入植者が市民宅を襲撃
- ・ハマスが第 1 段階の延長を拒否、エジプトはアラブ首脳会議を前に非エスカレーションを迫る
- ・ハマスが緊急アラブ首脳会議にメッセージ: 我々は、飢餓政策の継続を阻止するよう呼びかける。
- ・ガザ地区での死者は 48,397 人、負傷者は 111,824 人にのぼる。
- ・クネセトで囚人家族と警察が衝突
- ・スモトリッチ 我々は、強力かつ致命的で迅速な攻撃で、ガザに地獄の門を開く・ジャンブラット シオニズムはドルーズを利用してパレスチナ人を抑圧し、シリアへの進出を望んでいる。

3 月 4 日停戦 44 日:

- ・イスラエルの大臣 ネタニヤフ首相はガザへの電力を遮断する
- ・イスラエル占領軍は違反を続け、ガザ地区中心部の電気を遮断した。
- ・イスラエル政府高官 我々はヒズボラのラドワン部隊の要人を暗殺した。
- ・占領軍は 2 度目に、ダヒリヤ近郊の店舗を取り壊し、通りをブルドーザーで破壊・ジェニンキャンプでカッサム司令官を含む 2 人の殉教者
- ・シシ 我々はガザ地区を管理するために、独立したパレスチナ人からなる委員会を結成した。
- ・カイロで開催されたアラブ首脳会議で、ガザ管理に関するパレスチナのビジョンを発表したアッバス議長。

オリーブの会通信 第 53 号（通巻 59 号）

- ・米国はフーシ派を “ テロ組織 ” に指定している。
- ・アブドラ国王は、ヨルダンが同胞の移住を拒否し、ガザ再建のための明確な計画を支持することを改めて表明する。
- ・シン・ベト 我々はハマスとの戦いに失敗した。・

3 月 5 日停戦 45 日

- ・占領軍は、エルサレムの歴史的建造物をユダヤ教のシナゴグに併合するため
- に立ち退かせる決定を下した。
- ・シアラアはイスラエルにシリア南部から撤退するよう圧力を呼びかける。
- ・ハマス、エジプトでのアラブ緊急首脳会議の成果を歓迎
- ・米国はエジプト案を拒否： “ ガザは人間が住める場所ではない ”
- ・イスラエル、東エルサレムで 1,000 戸以上の住宅建設を承認へ
- ・エジプト：ガザ復興会議に 100 カ国が参加
- ・トランプ大統領の就任以来、イスラエルは大量のミサイルと弾薬を受け取っている。
- ・エルサレム県庁 1,000 の入植ユニットと併合計画は、「大エルサレム」ユダヤ人
- 化計画の奉獻である。
- ・トゥルカラムとその 2 つのキャンプに対する占領軍の攻撃は続いている。
- ・45 億シェケル イスラエルによるパレスチナ自治政府に対する訴訟
- ・サルフィット県、今月 209 件のイスラエル軍侵犯を記録
- ・イギリス、フランス、ドイツ イスラエルはガザへの援助を許可せよ

3 月 6 日停戦 46 日目：

- ・クネセットは “ テロ支援 ” とされる学生団体を閉鎖する法律を可決した。
- ・家屋の焼き討ちと取り壊し - 占領軍はジェニンとトゥルカラムへの侵略を続けている
- ・イスラエル空軍と米空軍が合同演習を実施
- ・占領軍は先週、ヨルダン川西岸地区から 90 人の市民を逮捕した。
- ・占領軍は、トゥルカラムの武器庫と爆弾製造工場を破壊したと主張している。
- ・カッツ氏、ガザからの自主避難に抗議船の使用を指示

3 月 7 日停戦から 47 日：

- ・ロシアはアラブのガザ復興計画を全面的に支持することを表明する。
- ・イスラエル、ワシントンとハマスの協議に怒り
- ・占領軍はヘブロン県民 13 人を逮捕した。
- ・イスラエルによるトゥルカラムとその 2 つのキャンプへの攻撃は、エスカレートと家屋取り壊しの中で 40 日目を迎えた。
- ・数百人の入植者たちが、イスラエル占領軍の保護の下、レバノン南部のフーラ近郊にある「しもべの墓」を襲撃した。
- ・9 万人の礼拝者がアル・アクサ・モスクでラマダンの最初の金曜礼拝を行う。
- ・カッツ：私は軍に対し年末までヨルダン川西岸のキャンプに留まる準備を指示
- ・UNRWA：ジェニン、トゥルカラム、ヌルシャムスのキャンプは居住不可能になった。

3 月 8 日停戦 48 日：

- ・トランプ大統領、「反ユダヤ主義」問題でコロンビア大学への資金援助を取消し
- ・イスラエルの侵害が続く中、ラファで 2 人の殉教者
- ・イスラエルの無人機部隊は、戦争が始まって以来、ガザとレバノンから 700 人の殉教者を殺害してきた。
- ・41 日目、占領軍はトゥルカラムとその 2 つの収容所に対する侵略を続けている。
- ・イスラム協力機構は、パレスチナの大義の中心性を確認し、パレスチナ人移動の試みを拒否する。

3 月 9 日停戦 49 日：

- ・カタールはイスラエルの核施設を国際的な監視の対象とするよう求めている。
- ・イスラエルの違反行為、交渉は月曜日に再開される
- ・国連報告者：イスラエルは UNRWA の清算を望んでいる
- ・ハマス高官 我々の指導者はトランプ特使と囚人問題について話し合った。
- ・ガザ戦争による死者は 48,458 人に上る。
- ・トランプ特使：ハマスとの会談は非常に有益であり、数週間以内に合意が成立する可能性がある。
- ・占領軍は、戦争の結果、軍の負傷兵や障害兵の数が 7 万 8000 人に増えたことを認めている。
- ・占領軍はガザへの電力供給を停止することを決定した。
- ・オスロ、ヘブロン、ワイ・リバー協定を取り消す法案がクネセトに提出された。
- ・トルコ、イスラエルの NATO 演習参加を禁止

3 月 10 日停戦 50 日：

- ・ルビオ ハマス支持者のビザやグリーンカードを剥奪する。
- ・アルパネーゼ：イスラエルによるガザへの電力供給停止は大量虐殺の脅威だ
- ・ガザの健康：過去 24 時間で殉教者 4 人、負傷者 16 人
- ・80 以上の公共図書館が破壊された - 文化大臣：
- ・ナブルス：入植者、フワラの土地に新たな入植拠点を設立

3 月 11 日停戦 51 日目：

- ・殉教者や負傷者続出 違反は続き、ケレム・シャロームの閉鎖も続く
- ・ラマッラで入植者が市民の車数台に放火
- ・ガザの人口の 90% は水を利用できない。
- ・ガザの保健省：36 人の殉教者、うち 32 人は 24 時間以内に回収した。
- ・エルサレムの科学図書館が襲撃され、所有者が逮捕された。

3 月 12 日停戦 52 日目：

- ・イスラエル警察は 1948 年領土内の西岸地区から 40 人の労働者を逮捕。
- ・大統領府 ハマスと外国当局との接触はパレスチナの法律とアラブの立場に違反
- ・フーシ派は、紅海、アラビア海、バブ・アル・マンドブ、アデン湾を通過するイスラエル船の通航禁止措置の再開を発表。
- ・Haaretz イスラエル軍はシリアに新たな軍事基地を建設するつもりだ。
- ・ガザの保健省：殉教者 12 人、うち 5 人は 24 時間以内に回収した。
- ・入植者たちは、ヘブロンの南に新しい入植地の前哨基地を建設し始めた。
- ・：占領軍はシリア南部の数十の標的を攻撃。

3 月 13 日停戦 53 日：

- ・国連：ガザでは食糧、水、保健サービスが不足している。
- ・占領軍はティベリアでヨルダン川西岸地区の労働者 23 人を逮捕した。
- ・身元不明者を含む 48 人の殉教者の遺体は移送され、アル・シファ病院の壁内に埋葬された。
- ・イスラエル軍機がダマスカスのイスラム聖戦施設を爆撃。
- ・ハマスとの直接交渉を開始した後、ベラーは解任された。
- ・シリアのドルーズ派コミュニティのシェイク：「我々はダマスカスに忠誠を誓っており、イスラエルに門戸を開いてはいない」。

3 月 14 日停戦 54 日目：

- ・国連人道問題調整事務所（OCHA）：国連による緊急援助活動への対応に入境所の閉鎖が影響
- ・ナブルスの南、ドウマで入植者が 3 軒の家と 2 台の車を燃やす。
- ・占領 先週、ヨルダン川西岸で 100 人以上のパレスチナ人が逮捕された。
- ・ペイト・ハヌーン、シュジャイヤ、ラファにおけるイスラエルの違反行為

3 月 15 日停戦 55 日目：

- ・OCHA、ヨルダン川西岸での入植者による暴力の激化を警告
- ・コロンビア大学のデモに参加した 2 人目のパレスチナ大学生が逮捕された。
- ・占領軍の違反行為は続き、ケレム・シャローム交差点は閉鎖されたままだ。
- ・新聞 イスラエル、アダム・ベラー特使の解任に成功
- ・トゥルカラムでの包囲と襲撃は 48 日目も続いている。
- ・UNRWA の崩壊は、パレスチナの子どもたちの世代全体を破壊する恐れがある。
- ・南レバノン イスラエルの無人偵察機がマルジャユーンの手車を標的にし、1 人が死亡、1 人が負傷。
- ・ガザ保健省 ガザ地区の殉教者数は 48,543 人に上った。
- ・ガザ 停戦合意発効後、150 人以上の殉教者が出た。

3 月 16 日停戦 56 日目：

- ・イエメン 米軍の空爆、サヌアのフーシ派拠点を標的に
- ・英国はイスラエルに対し、ガザへの援助と電力の封鎖を中止するよう求める。
- ・24 時間続いた違反行為で 12 人の殉教者
- ・ヨルダン川西岸地区北部では、襲撃、逮捕、家屋の焼き討ちなど、占領軍の侵略が続いている。
- ・レバノン南部での占領軍による車両爆破で殉教者と負傷者
- ・入植者たちはイスラエルの旗を立て、サルフィット西部で更地化を続けている。
- ・ガザで 24 時間に 29 人の殉教者
- ・ラマダンの 16 日、数百人の入植者がアル・アクサ・モスクで踊り、祈りを捧げる。
- ・UNRWA：3 月 2 日以来、物資はガザに入っていない。
- ・フーシ アメリカの敵は 170 回以上の空襲で侵略を開始した。

3 月 17 日停戦 57 日：

- ・イスラエル シン・ベト長官解任に抗議する大規模デモの準備開始を呼びかけ
- ・フーシ派 ガザ封鎖が解除されるまで、イスラエル船の通行を阻止し続ける。
- ・危機的な人道状況：ガザの人口の 10% しか安全な飲料水を利用できない。
- ・ヨルダン川西岸での負傷者と逮捕者 - 占領軍はトゥルカラム・キャンプの 200 世帯に避難を強いる。
- ・ユニセフ ガザ地区では 100 万人の子どもたちが生きるのに必死です。
- ・ガザ保健省：24 時間で殉教者 29 人、負傷者 51 人
- ・シン・ベト前長官、イスラエル人に市民的不服従を呼びかけ
- ・イスラエル占領軍がレバノンの西部ベカー渓谷への侵攻を開始。

3 月 18 日

- ・米国はレバノン人医師の携帯電話からヒズボラ人物の写真を発見し、強制送還

- ・ ネタニヤフ首相 イスラエルはガザのハマスに対する軍事作戦を再開した。
- ・ ガザ地区全域に及ぶイスラエル軍の激しい空爆による殉教者と負傷者
- ・ カッツ：ガザに地獄の門が開かれるだろう
- ・ ガザでの虐殺 – イスラエルのガザ空襲で 200 人の殉教者と数十人の負傷者
- ・ ホワイトハウス イスラエルはガザ空襲について我々に相談した
- ・ ガザの政府メディア： 5 時間で 322 人以上の殉教者と行方不明者
- ・ イスラエル人捕虜の家族 戦争の再来に衝撃を受ける
- ・ ハマスの情報源 爆撃の犠牲者のうちイスラエル人四人 1 人が死亡 2 人が負傷
- ・ ガザ地区では政府高官の多くが殉教した。
- ・ イスラエル人捕虜の家族 戦争の即時終結を求める
- ・ 欧州連合（EU）、イスラエルにガザ空爆の停止を要請
- ・ フーシ 我々はイスラエルの “ ネバティム ” 基地を標的とし、作戦を拡大する。
- ・ ネタニヤフ首相 交渉は今後、砲火の下で行われる。

3 月 19 日

- ・ 戦闘再開でイスラエル国内の分裂が深刻化、クネセト前でデモが発生。
- ・ イスラエル政府はベン・グヴィールの国家安全保障大臣就任を承認。
- ・ 戦争再開 2 日目の激しい空襲で 14 人の殉教者、ベイト・ハヌーンに避難命令
- ・ 国連：最近のガザ空襲で 170 人以上の子供が死亡
- ・ ガザでは、水と衛生の供給源の 85% が、完全にか、部分的に使えなくなっている。
- ・ ガザ地区への新たな空爆による殉教者と負傷者
- ・ アブドラ国王 イスラエルのガザ攻撃再開は、極めて危険な一歩だ。
- ・ イスラエルは、ハマス政府とその政治局からさらに 2 人の指導者の暗殺を発表。
- ・ 占領軍は、サラ・アル・ディン通りを銃撃で閉鎖した。
- ・ カッツ、ガザ住民を破壊で脅す： 避難はまもなく始まる
- ・ 占領軍はガザ地区で地上作戦を開始。
- ・ ガザ空爆でブルガリア国籍の国連職員が死亡。
- ・ 占領軍は、ナブルスの西にあるアル・アイン難民キャンプで、80 家族以上を強制退去させた。

3 月 20 日戦争再開 3 日目：

- ・ レバノン大統領 イスラエルは決議 1701 の実施を妨害している。
- ・ クネセトはベン・グヴィア国家安全保障相の再任を承認。
- ・ イスラエルの元司令官 軍の圧力は囚人を解放せず、何人かの死につながった。
- ・ イエメンからのミサイル発射でイスラエル人 13 人が負傷、ネタニヤフ首相はクネゼットから避難
- ・ ガザ地区南部と北部で数十人が殺害される
- ・ イエメン軍がベン・グリオン空港を狙っていると発表した。
- ・ テルアビブ中心部の大通りを封鎖する戦争への回帰に反対するデモ隊。
- ・ ガザからロケット弾 2 発発射： イスラエルでサイレンが鳴り響く
- ・ ガザの保健省： 戦争再開以来、200 人の子どもを含む 506 人の殉教者。
- ・ ハン・ユニスとベイトラヒア東部への激しい襲撃で殉教者と負傷者
- ・ ヨルダン川西岸で市民 70 人を逮捕

3 月 21 日戦争再開 4 日目

- ・ この 72 時間で 殉教者 591 人、負傷者 1,042 人
- ・ 占領軍は、ガザでの地上作戦をラファまで拡大すると発表。
- ・ バーの解雇を前にエルサレムで数千人が抗議行動
- ・ 寄進大臣 占領軍はラマダン第 3 金曜日のイブラヒミ・モスクの引き渡しを拒否している。
- ・ イスラエル政府がシン・ベトの責任者の解任を承認。
- ・ フーシ 我々はジャファの南で弾道ミサイルによる質的作戦を実施した。
- ・ 、イスラエル軍機はガザ地区の標的を空爆し、ラファの西の地上に進攻した。
- ・ 占領軍はナブルス州のバラタ・キャンプと多くの村を襲撃した。
- ・ ガザ地区のアルクツズ病院、イスラエル軍の爆撃にもかかわらず手術を再開。
- ・ イスラエルによるトゥルカルム市とその 2 つのキャンプへの攻撃は 54 日連続・UNRWA ガザの状況は非常に憂慮すべきもので、大規模な援助削減が行われている。
- ・ イスラエル最高裁判所、シン・ベト長官解任の一時差し止め命令を出す。
- ・ 占領軍はガザ北部の住民に「最終警告」を発した。
- ・ イスラエル軍 アシュケロン上空でロケット弾 2 発を迎撃
- ・ フランス、ヨルダン川西岸とガザにおける「いかなる形態の併合にも反対
- ・ カッツはガザ地区の新地域を占領するよう軍に命じる。
- ・ カッサム旅団がロケット弾によるアシュケロン空爆を発表
- ・ Haaretz イスラエルはガザ全域を占領し、軍政を敷く準備を進めている。

3 月 22 日戦争 5 日目：

- ・ イエメンからロケット弾が発射され、いくつかの地域でサイレンが鳴った。
- ・ イエメンのサダを標的とした米国の新たな空爆
- ・ ガザとハン・ユニスでの空襲、北部での避難。

- ・ イスラエルは 3 カ月ぶりにレバノンから発射された 3 発のロケット弾を迎撃。
- ・ イスラエル レバノンからのミサイルに力強く対応する
- ・ 負傷者 2 名... イスラエルがヒズボラの標的を爆撃
- ・ ヒズボラは、レバノン南部からイスラエルへのロケット弾発射への関与を否定
- ・ シリア イスラエルによる空爆がダマスカス郊外のナジャの町を標的とした。

3 月 23 日戦争再開 6 日目：

- ・ イスラエル人捕虜の家族が街頭で戦争停止を要求
- ・ レバノン東部と南部を標的としたイスラエルの一連の空襲
- ・ イスラエル レバノン政府は、自国の領土で起こるすべてのことに責任を負う。
- ・ ガザ：散発的なイスラエル軍の砲撃で子供を含む 18 人の殉教者
- ・ ラファの民家に対するイスラエル軍の爆撃で、殉教者と負傷者が死亡した。
- ・ ハマス、“イスラエルの犯罪を止める”のために国際的、アラブ的、イスラム的な行動を呼びかけ
- ・ イエメン 米国の新たな攻撃目標、アル・フダイダ州とマリブ州
- ・ イスラエルによるレバノン南部のトゥーリン町とティレ市への空襲で 6 人が殉教。
- ・ ハン・ユニスの東でイスラエル軍の空爆があり、子どもが死亡、他も負傷した。
- ・ ハマスの指導者サラ・アル・バルダウィル、ハン・ユニス西の空爆で死亡
- ・ ラファとカン・ユニスで数十人の殉教者、ガザと北部への襲撃。
- ・ イスラエル軍はラファ西部のテル・アル・スルタン地区の住民に新たな避難命令を出した。
- ・ 続くジェニンへの攻撃... 21,000 人が避難し、100%の道路が破壊された。
- ・ 占領軍はラファで救急車を包囲し、多数の救急隊員が負傷した。
- ・ イスラエル、ガザ移住管理機関の設立を承認、13 の新たな入植地を承認
- ・ 占領軍はラファで数時間にわたって 4 台の救急車を包囲している。
- ・ ヨルダン川西岸地区には、占領軍によって 849 の検問所とゲートが設置された。
- ・ 一日で 41 人の殉教者 – ガザ戦開始以来 5 万人の殉教者
- ・ 占領軍は避難命令の後、ラファ西部の市民数千人を包囲した。
- ・ レバノン南部で車を狙うイスラエルの無人機。
- ・ イスラエル政府は全会一致で司法長官の解任を承認した。
- ・ イエメン、サダへの 2 度の米軍空襲

3 月 24 日戦争の再開から 1 週間：

- ・ イスラエル占領軍の参謀総長は、ガザでの作戦拡大を勧告している。
- ・ 6 日間で 5 人目 ハマス政治局員イスマイル・バルフムの暗殺
- ・ イスラエル 交渉は暗礁に乗り上げイスラエル軍はガザでの次のステージを準備。
- ・ PLO：中央評議会が召集され、派閥の加盟に門戸を開いた。
- ・ ガザ地区中南部での空爆により、教育局長とその家族を含む 6 人の殉教者が死亡した。
- ・ カン・ユニへの集中攻撃とテル・スルタン包囲戦での殉教者たち
- ・ エジプトは、パレスチナ人をガザから追い出すいかなる試みも拒否することを繰り返す。
- ・ ハイファ近郊でイスラエル人が銃撃され、1 人が死亡、1 人が負傷した。
- ・ ガザでの継続的な空襲とヌセイラトの避難所襲撃の結果、ジャーナリストを含む殉教者が出た。
- ・ 赤新月社は、ラファにおける乗組員の標的と包囲を非難する。
- ・ イスラエルによるガザ地区への砲撃が続き、2 人目のジャーナリストが死亡した。
- ・ UNRWA：ガザではわずか数日で 12 万 4 千人が避難を余儀なくされた

3 月 25 日

- ・ サラヤ・アルクツズがガザ包囲居住区にロケット弾を撃ち込む
- ・ イスラエルはガザ北部の地域に新たな避難命令を発令。
- ・ イスラエル、イエメンから発射されたミサイルの迎撃を発表
- ・ テル・アル・スルタン地区：イスラエルは、ガザ南部ラファでの地上作戦の拡大を発表。
- ・ イスラエル軍がラファの赤十字社ビルを爆撃したことを認める。
- ・ ガザでの連続虐殺... 本日未明から 60 人の殉教者
- ・ 占領軍はガザ地区北部の市民に新たな「避難命令」を出した。
- ・ イスラエル占領軍は 我々はヒズボラ対戦車部隊の司令官を暗殺した。
- ・ イスラエルによるシリア南部ダラア空爆で殉教者 5 名
- ・ ハマスは、ガザ、エルサレム、アル・アクサ・モスクを支持するための総動員と抗議を呼びかける。
- ・ 夜明けから 37 人の殉教者 イスラエル軍のガザ攻撃による殉教者と負傷者
- ・ UNRWA：ガザではわずか数日で 12 万 4 千人が避難
- ・ 外務省 ラファ、ジェニン、トゥルカルムにおける占領軍のエスカレートは、その移転と拡張主義的な政策を裏付けるものだ。
- ・ ダマスカスはイスラエルの侵略を非難し、国際的な調査を求めている。
- ・ 占領軍はラファで 15 人の救急隊員と市民防衛隊員を誘拐した。



Maher Zain - Ya Habiba Ya Falastin

愛するパレスチナよ

パレスチナ

平和の地、使者の地

パレスチナ

魂の魂よ、我々は忘れてはいない

パレスチナ…パレスチナ

パレスチナ…パレスチナ

愛すべきパレスチナよ

ああ、イチジクの地よ

あなたの大地はムスク【麝香】の香りと

ジャスミンの花で覆われている

あなたの民は約束を待っている

明日、我々は帰還する

我々は鎖を断ち切る

我々は国境のない祖国を築く

たとえ彼らが我々の家を破壊しようとも

自由の太陽が我々を温める

我々は死に挑む

我々是我々の土地を取り戻すことを誓う

たとえどれほど破壊されようとも

我々は明日、それを再建する

そして、

パレスチナ

平和の地、使者の地

パレスチナ

魂の魂よ、我々は忘れてはいない

パレスチナ

分離は長く続いた

明日、我々はあなたのもとへ帰還する

パレスチナ

誇り、尊厳、そして尽きることのない人々

パレスチナ…パレスチナ

パレスチナ…パレスチナ

ああ、愛するパレスチナよ

あなたの魂は苦しみ、血を流している

勇敢で忍耐強い

あなたの民は、揺るぎない決意をもってあなたに誓った

亡命から帰還し

エルサレムとアル・アクサのために

私たちは決して諦めないと誓う

犠牲を払った殉教者たちのために

パレスチナが生きるために

パレスチナが生きるために

パレスチナ

平和の地、そして使者の地

パレスチナ

魂の中の魂よ

パレスチナ

分離は長かった

明日、私たちはあなたのもとへ帰る

パレスチナ

誇り、尊厳、そして尽きることのない民

パレスチナ…パレスチナ

パレスチナ…パレスチナ

ああ、愛する者よパレスチナ

明日、私たちはあなたのもとに戻ります

神にかけて、私たちはあなたのもとに戻ります

YOUTUBE で Maher Zain - Ya Habiba Ya Falastin で検索

おいしいパレスチナ

グリーンオリーブサラダ

今日は、グリーンオリーブ、レモン、ミックスペッパー、クルミのサラダ / ジャムをご紹介します。何世代にもわたって家族に愛されてきた、実績のあるレシピで、元気を取り戻しましょう。

このサラダは、忙しい日の手軽なランチに、温かいパンやクラッカーと一緒に召し上がっていただけます。サンドイッチやスナックボードに添えるのにぴったりの、そしてパスタ、ツナサラダ、ミックスグリーンをワンランクアップさせる私の秘密兵器の一つです。一番のメリットは、オリーブオイルのおかげで、大量に作って冷蔵庫で保存しておけることです。

オリーブサラダ

種抜きみじん切りにしたピクルス用グリーンオリーブ 2 カップ

1cm 角に切ったピーマン 2 カップ

砕いたクルミ 1 カップ

皮をむいてみじん切りにしたレモンまたはライム 1 カップ

塩 小さじ 1.5

シャッタ (唐辛子ペースト) 大さじ 2 (お好みで)

オリーブオイル

塩

1. ピーマンをざるに入れ、塩を振りかけ、ざるごとボウルに入れます。冷蔵庫で一晩置きます。(ピーマンの水分を減らすためです。こうすることで、ジャムの保存期間が長くなります。)

2. オリーブ、ピーマン、レモン、クルミ、シャッタを混ぜ合わせます。

3. ミックスを瓶に入れる

4. ミックスが浸るくらいの量の油を加える

5. 蓋をして冷蔵庫で保存する

注意：

このサラダを大量に作る場合は、刻んだレモン以外を全て混ぜ合わせ、レシピ通りにレモン抜きで作ることをお勧めします。レモンは、食べる時か前夜に加えてください。こうすることでレモンのフレッシュさが保たれ、サラダに爽やかな風味が加わり、日持ちも良くなります。



UAWC 寄付するには

IBAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur、Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociacion Para La Cooperacion Y Desarrollo De Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡ください。





4月13日ガザ旧市の聖ポルフィルス教会でパームサンデーの祈りをささげた



4月16日トランプ政権はハーバード大学に対して、新パレスチナの学生の活動を制限していないことでの介入を拒否したため政府資金を凍結された



さらにコロンビア大学パレスチナ人が学生が拘束された
強制退去の危険にさらしている



4月19日京都で抗議デモ、153人が参加

今号の内容

イスラエル米国の民族浄化戦争を止めよう・〇〇……………１
 イスラエル、ガザを窮乏化した……………３
 イスラエル軍、ガザの予備兵を削減……………５
 私がイスラエルの「民主化」運動を支持しない理由……………７
 パレスチナの武装闘争に関する沈黙を破る……………９
 国際ボランティアキャンペーンのお知らせ……………１１
 パレスチナ日誌……………１１
 パレスチナの歌……………１４
 おいしいパレスチナ……………１５
 トピック……………１６



4月17日パリでパレスチナ人ジャーナリスト虐殺に抗議する



4月13日大阪、イスラエルの万博参加に抗議する行動